

精神障害者問題 資料集成

戦前編

全12巻

編集復刻版

精神障害者は、 国家によってどう管理されたか。 どう生き抜いたのか。

新たに発見された東京府立松澤病院内で発行された『救治會々報』や厚生省予防局優生課内で発行された雑誌『和光』、植民地下台湾で発行された『心理と医学』や、川崎市公文書館に所蔵されていた「救護法」下での病院収容の実例文書など80余点を収録。こうした戦前の新資料群によって、戦後の精神衛生法下における同意入院や生活保護法の適用への影響が具体的に示されていく！

新資料発見!

心理と医学

第一卷 第一号



臺北帝國大學醫學部精神科

日本精神療法學會發行

顛狂院諸病院規則

山崎藏書

救治會々報

第十五号
昭和十四年十一月一日発行

救治會
は明治三十年十月五日帝國大學醫學部松澤病院内に於て設立せられたる精神科の職員なるものにして此後これを以て本院とすも少なき事漸次大なりを以て本院に於て来るに會同第百十號を發行する運びに立至りたり。本院の此病入を養護し且つは人々の爲に本院の病室を設くるが爲めに本院の病室を設くることとす。

戦後米病牀日誌

東京帝國大學醫學部
精神病科病室

大正七年二月五日退入院
大正七年三月廿六日退院

今回の刊行にあたって

青柿舎 岡田靖雄

歴史資料をあつめ、編集するとは、ジグソー・パズルににている。ちらばっているピースには、ほかのものもまじっている。それらからいくつかのピースをえらび、ならべてみる。そこには、絵のある部分のみえてくるかもしれない。

この編集をおえて、戦後編の編集にかかっている。中心におきたいのは、「金沢学会」(一九六九年日本精神神経学会総会)前後、各地の大学病院精神科・精神病院におこった闘争の全体像だが、問い合わせに對し、「周囲にきいても当時の資料はのこっていない」「警察の弾圧をおそれ、資料はすぐに廃棄していった」という返事がおおい。当時をいきた者には、ぼんやりと全体像はのこっている。だが、あとの人たちは、いま固定された資料によって判断するしかなくなる。できるだけくみあわせても、パズルの絵には空白がひろくのこる。

今回いくつかの新資料を追加できた。前述のことからすれば、戦前像の空白部分はいくらかせばめられてはいる。しかし、全体像がみえるにはほどとおい。後藤基行さんによる川崎市資料発掘によって、精神病患者監護法の運用の実態がさらにあきらかになった。同時に、医師の診断書の必要性の問題も浮上し、各地における同様資料の発掘がさらにのぞまれるところである。精神病院法による入院対象者の第二項は「罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官庁特ニ危険ノ虞アリト認ムルモノ」で、これはわが国における広義保安処分最初の規定である。この項目の該当者がどのくらいいたかの数字をまだみることがない。

パズルのピース集めは、戦前についてもまだまだ継続されなくてはならない。同時に、空白部分の絵をどうおぎなうか、他分野の知もかりて論じなくてはならない。

推薦のことば

精神障がい領域に社会福祉学からの 歴史的アプローチを可能とする資料集成

大友昌子

精神障がい領域は、長く医療を中心とした取り組みが行われてきたが、今日では、医療以外の場面、すなわち地域や家庭、デイサービス、会社や学校の相談支援など、当事者を中心として多職種が協働する実践場面が展開する領域である。一方で、精神障がいに対する誤解と差別が浸透するこの社会において、精神的に病む人々は増加傾向にあり、無理解と生きづらさに苦しむ人々が増え続けてもいる。

精神障がいをめぐる医療のあり方、とりわけ社会的動向の特質は、長い時間軸のなかでしか明らかにし得ない事象を含んでいる。近代という国民国家の成立、衛生医療と社会防衛の展開、専門家集団の創出、人権と当事者主体の価値観の生成、こうした精神障がいとこれを病む人々をとりまく本質的な問題性は、歴史的社会的文脈のなかにおいて浮かびあがる事象である。

このたびの六花出版による第四回配本は、日本による植民地体制下の台湾における機関誌『心理と医学』や東京府立松沢病院内で発刊された『救治会々報』、古くは一八八七年の病床日誌、また一九〇五年の日露戦争による発病者の病床日誌、一九二〇年発足の日本精神病医協会の記事、公立及代用精神病院協会発行の『和光』など貴重な史料が含まれる。

精神障がい領域における社会福祉学からの活発な歴史的研究が進展することを願ってやまない。

(おおともまさこ／中京大学名誉教授・社会事業史学会会長)

精神異常者と社会問題

中央慈善協會

序

社会問題と精神異常者との関係は密接にして且つ廣大なり。而かも精神異常者に關する世上一般の智識は深からずして、未だ其普及を見ざるは我邦現代文明の一大缺陷なりとす。願ふに精神異常者と稱すべきものは其數甚だ多く、而して其種類亦多岐に亘り、一面最も憐れむべき病者たると共に、他の一面に於ては亦た實に社会を蠱毒するの悪分子たり。須らく其本態を研究し、其性質を闡明し、以て個人の救済を圖り、以て社会の幸福を増進せしめざるべからず。

近時我邦に於ける感化救済の事業は蔚然として勃興し來り、社会問題を研究するの士亦益々多きを加ふるに至れるは、洵に慶賀に堪へざるなり。然りと雖も精神異常者の本態並に性質を究明せずんば、焉んぞ能く社会問題を解決し、又根蒂深

き感化救済の實を擧ぐることを得んや。今次本會が東京醫科大學精神病學教室、内務省衛生局、其他の専門家に依頼して本書を編纂せしの趣旨亦實に茲に存す。本書幸にして新興の氣運に向ひつゝある我邦精神異常者に關する制度施設の改善向上に對して資する所あらば、本懐是れに過ぎざるなり。

大正七年十一月三日

中央慈善協會

精神異常者と社会問題目次

第一 精神異常者と救済

口繪 獨逸アルト・シユルピツ病院全景 精神病者私宅監置實景三葉	
精神病者の救済並に精神病的社會問題……………	東京帝國大學教授 吳 秀 三(一)
民族衛生上より觀たる精神病……………	東京帝國大學教授 永 井 潜(三)
精神病的中間者及び色情異常者の救済……………	東京帝國大學助教授 三 宅 鏡 一(五)
精神病者に對する醫學と法律との交渉……………	東京地方裁判所判事 山 崎 佐(六)
本邦精神病者の統計的觀察……………	法政大學教授 山 崎 佐(六)
社會的危險性精神病者及其處置……………	國內 務 技 師 武 崎 宗 三(七)
監獄に於ける精神病者を如何に保護すべきか……………	警 視 廳 技 師 杉 江 董(八)
白癡及び低能者及其救済……………	井 村 監 獄 院 長 井 村 忠 介(一〇)
	千葉醫學專門學校講師 後 藤 城 四 郎(一一)

これからの精神科医療を 考えるための必読文献 松下正明

現在の日本の精神科医療は曲がり角にきているといわれて久しい。これからの精神科医療のあるべき姿が今なお暗中模索されているとき、過去の、とくに明治初期以来の近代精神科医療の歩みを改めて振り返ってみる必要がある。

本復刻版には、精神科医療に関わる種々の規則、通達、統計、あるいは議会における議事録にはじまって、府立松沢病院史などよく知られた文書から、一般にはほとんど目にするのできない精神鑑定書、個々の病院の案内、パンフレットに至るまで、よくぞこころで集めたものだと感じするほどの多くの資料が集められている。

本復刻版は、日本の近代精神科医療を省みながら、これからの精神科医療を考えるときの必読文献集といってもよい。そして、これらの資料をいかに読み込んでいくのかが読者に問われることになるだろう。

私にとっても初見の資料が数多くあり、明確な問題意識をもって、じっくりと勉強していきたいと思っている。
(まつした・まさあき▼精神医学史学会理事長)

差別の実態を浮かび上がらせる 資料群 酒井シツ

明治維新後から戦前までの八〇年余、精神障害者が近代化の名の下に受けてきた待遇に関する資料の総集編である。半端なものでない。さすが岡田靖雄氏の編集になるものと感嘆した。岡田氏は「私説 松沢病院史」を著し、東京大学精神医学の名誉教授で日本の精神医学の基礎を築いた呉秀三について「呉秀三 その生涯と業績」「呉秀三著作集」などを出版した、精神医療史研究者として右に出る者がいない方である。長年、精神科医療史資料室を主宰して、こつこつと集められた資料がここに「資料集成」として公にされることになったのだろう。うれしかぎりである。

呉秀三は、私宅監置に関する論文のなかで、日本の精神障害者が病の苦しみの上に「この国に生まれたら不幸」を負わされたことを指摘したが、私宅監置だけでなく、精神障害者を社会から隔絶するためにできた精神病院、精神障害者に対する法律などによっても差別された。精神障害者がどのような待遇をうけたのか、ここに収録された資料のタイトルをみるだけでも想像がつく。人権問題が論じられて長い時間が経つが、精神障害者がその対象になったのは戦後であった。それだけにこの資料集成が語る意味は重い。

(さかい・しつ▼順天堂大学名誉教授)

関連年表 (本資料集成収録のものを中心に)

年	月	事項
一八七三	1	樟原市子憑新樽風下等禁止(教部省第二号)
一八七四	8	医制発布
	12	東京南戒病院に精神病室
	8	京都南禅寺に最初の公立精神病院・京都癡狂院開業、これにともない近代以前からの精神科治療施設であった京都岩倉での茶屋に対し、精神科者を宿泊させ長期看護することを布令により禁止
一八七五	7	養育院(東京)に狂人室(癡狂室)完成
	10	東京警視庁、癡癡人及び不良子弟の私宅鎖固について布達、甲第三八号
	5	東京小松川に癡狂病院開業
一八七八	5	加藤照業、東京本郷区田町に癡癡病院を開業
	12	東京府癡狂院の創業(のちの東京府癡癡病院/東京府(部)立松沢病院)
一八七九	9	愛知県公立医学学校で断訟医学講義をはじめ東京北豊島郡に私立癡癡病院創立(のちの根岸病院)
	11	群馬県前橋市内の僧侶と有志で救済事業を開始(のちの前橋積善会)
一八八〇		京都に木瓜原癡狂院創立
	3	京都癡癡院廃止、永親堂境内に私立京都癡癡院として継承(のちの川越病院)
一八八二	10	京都に岩倉癡狂院(のちの岩倉病院)設立
一八八四	8	神威、帝国大学医科大学で精神病学講義をはじめ東京府癡癡院に入院中の旧中村藩(現在の福島県東北部)藩主相馬誠胤を、田藩士織田剛清が連れ出す
一八八七	1	東京府癡癡院の医務は医科大学が負担
一八九一	5	京都に船岡癡癡院設立
一八九三	7	前年相馬誠胤が死亡したのは家令らによる毒殺であると錦織が告訴、しかし免訴
一八九四	4	東京警視庁、精神科患者取扱心得を発布(訓令第二五号)
	9	日本禁酒同盟設立
一八九八	12	東京脳病院開設(のちの田端脳病院)
一八九九	9	精神科者監護法公布
一九〇〇	3	呉秀三、留学から帰国し東京帝国大学医科大学教授、東京府東鴨病院院長(一九〇四年院長)となる
一九〇一	10	日本神経学会創立
一九〇二	4	精神科者慈善救済会設立
一九〇三	10	同会、機関誌「心疾者の救護」発刊
一九〇九		横浜神楽坂病院設立(のちの横浜脳病院/横浜病院)
一九一六	5	東京帝国大学医科大学に精神科者慈善救済会寄付による精神病室落成
一九一八	6	呉秀三・櫻田五郎「精神科者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察」発表。このなかで日本の精神科者には病気になるほかに「此邦ニ生レタルノ不幸」があると述べる
一九一九	3	精神病院法公布 このころ森田正馬、「森田療法」を創始

病者の人権問題を

追究するために

藤野 豊

近代日本では、特定の病者が国家により法的に差別・迫害されてきた。その象徴がハンセン病患者と精神障害者であろう。ともに共通する迫害の理由は、「文明国」という国家意識、総力戦体制構築に向けた優生思想、そして治安対策である。さらに、戦後に至っても、「公共の福祉」の美名を掲げて国家は迫害を正当化し、わたくしたちも民主主義の法衣をまとった差別政策を受容してきた。こうしたなか、すでに「近現代日本ハンセン病問題資料集成」を刊行した不二出版が、このたび「精神障害者問題資料集成」を刊行されたことに感銘を覚える。そして何よりも、編者が岡田靖雄先生であることに深い敬意を表したい。

ここに収められた膨大な資料は、法令、統計、医学研究に関するものもとより、病院の運営、医療・看護の実態など多岐に及ぶ。刊行された活字資料に止まらず、多くの原資料も含まれている。近代日本の精神障害者に対する歴史を知ろうとするあらゆる専門分野のひとびとを満足させるであろうことは疑いない。さらに、資料の選択などの編集には岡田先生の病者の人権を守ろうとする視点が一貫している。それは、植民地の資料まで渉猟された事実に顕著にあらわされている。まさに岡田先生だからこそ、なした資料集成とすることができる。わたくしは、抑えられない興奮を胸中に感じつつ、本資料集成を病者・障害者の人権に関わるすべての方々に心より推薦したい。

(ふじの・ゆたか▼近現代史研究者)

精神医療史研究の

飛躍的進展を期待

中村 治

精神障害はかなり高い率で必ず出てくるものである。そうであるなら、そのような障害を持った人にどのような対応するかは、われわれの身近な人に精神障害が発生した場合はもちろんのこと、社会全体にとってもきわめて大きな問題であったし、あり続けている。社会としてこの問題にこれからどのように対応していけばよいのかを考えるためには、これまで社会が精神障害者にどのように対応してきたのかを見ておくことが大いに参考になると思われるが、それを示してくれる資料が乏しかった。

正確に言えば、散逸した資料も多いのであるが、図書館や資料室や個人の書架の奥深くに収蔵されていた資料が多く、それを探し出す方法が限られていたのである。

このたび不二出版から「精神障害者問題資料集成」が出版される。鑑識眼をそなえた岡田先生と小峯先生が長年にわたって収集されてきた資料に加え、資料に対する特別な嗅覚をそなえた橋本先生と資料探しの専門家の野田氏が全国の図書館をまわって集めてこられた資料が核になっている。

これからの精神医療史研究は、これらの資料を参照しておくことが前提となるであろうし、研究の精度が飛躍的に向上することであろう。

(なかむら・おさむ▼大阪府立大学)



患者野球リーグ戦の実況(東京府立松沢病院、1939年)

一九二〇	4	日本精神医学会設立
一九二一	6	「心疾者の救護」改題「救治会々報」となる
一九二五	5	熊谷病院設立(埼玉県、のちの西熊谷病院)
一九二六	4	大阪府立中宮病院創立(のちの大阪府立精神医療センター)
一九二七	1	前年発足の日本精神衛生協会(民間団体)が機関誌「脳」発刊
一九二八	6	前橋積善会、飯橋病院を開院
一九二九	3	神奈川県立芹香院設立(のちの神奈川県立医療センター)セリがや病院
一九三一	6	日本精神衛生協会発足
一九三二	7	鎌倉病院設立(神奈川県、のちの藤沢病院)
一九三三	12	公立及代用精神病院院長会議 根岸病院労働争議
一九三四	6	川越病院設立(埼玉県、のちの川越同仁会病院)
一九三四	4	公立及代用精神病院協会の機関誌「和光」創刊
一九三六	10	鶴見西井病院設立(神奈川県、のちの鶴見西井病院)
一九三七	11	国府台病院設立(千葉県、のちの式場病院)
一九三八	2	松沢病院入院中の芦原裕軍医
一九四〇	1	兵庫県立光風寮設立(のちの兵庫県立光風病院)
一九四三	5	厚生省設立 国民優生法公布 精神厚生会結成

目次

資料名・編著者名(発行所)・発行年月

第1巻

I 初期資料(解説 岡田靖雄)

狂気人御説諭御願 □□松三郎 一八七六・一〇
相馬家紛擾之顛末 錦織剛清 一八八七・二

II 各地の「瘋癲人」取締規則等

(解説 岡田靖雄・野田武志)

瘋癲人鎖銅願 □□鉄五郎 一八八四・一
〔瘋癲人看護の為私宅に鎖銅〕 (甲第八拾貳号) 兵庫県
令 一八八四・九
瘋癲(警務要書) 内務省警保局 一八八五・六
瘋癲人取締規則(滋賀県公報) 一八八七
瘋癲人取締規則(県令第百二十四号) (群馬県) 一八八
七・一

III 巢鴨病院/松沢病院(解説 岡田靖雄)

東京府立松沢病院ノ歴史及患者統計・東京帝国大
学精神病学教室ノ歴史及患者統計(吳教授在職二十
五年記念文集別刷) 東京府立松沢病院医局同人・東京帝国大
精神病学教室同人 一九二八・一一
東京府巢鴨病院規則 序 吳秀三 一九〇六・三
看護人心得之大事 第四拾七号 (東京府立松沢病院) 一九
二五・七

蝶友会々々則・同施行細則 一九三九・四
入院後ノ心得 東京府立松沢病院 (一九三五)

東京府立松沢病院案内 (一九三七)

東京府巢鴨病院 五区二号室患者 一八九八・一二
松の緑 第一選集 編・序 野村章恒 / 序 杉田直樹 / 表紙 飯沢
天羊 一九三一・五

精神病学教室及附属病院建設地トシテ伝染病研究
所構内ノ地所ヲ検分候処 筆記 吳秀三 一九一七・二

第2巻

III 巢鴨病院/松沢病院(年表類)(解説 岡田靖雄)

明治二十九年巢鴨病院医事年報 一八九七・七
自大正九年至大正十三年東京府立松沢病院年報
一九二八・三
昭和三年東京府立松沢病院年報 一九二九・一〇
昭和十四年東京府立松沢病院年報 一九四二・二

第3巻

IV 公立精神病院(解説 岡田靖雄)

大正十五昭和元年大阪府立中宮病院概況報告書
一九二七・一〇
神奈川県立芹香院概要 一九四〇・四
県立精神病院光風寮建築概要 兵庫県 一九三七・五

V 私立精神病院(解説 岡田靖雄)

木瓜原狂病院補助金集帳 第八百廿三号(抄) 一八八二
入院心得書 大正三年改 船岡精神病院 一九一四
顛狂院諸病院規則 山崎(佐蔵)
公立及代用精神病院々々主院長会議々々事録 一九三
三・九
和光 第壹号 斎藤玉男ほか / 表紙 高野六郎 / 公立及代用精神病
院協会 一九三四・四

鎌倉脳病院十週年記念誌 一九四一・六
岩倉病院史草案 土屋栄吉・末松たま・柴山泰三郎・三原登美
子・平賀ハツ・青山はる代 (一九四八・七)

第4巻

VI 精神病患者監護法および精神病院法

(解説 岡田靖雄・橋本明)

群馬県管下精神病患者私宅監置状況視察報告 斎藤玉
男 一九二〇・一〇

精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察(二) 5
(四) (東京医学会雑誌) 第拾貳卷第十号(第十三号) 吳秀
三・榎田五郎 一九一八・六

精神病患者保護取締ニ関スル意見 吳秀三 一九一八・六
監置精神病患者発病原因調査報告 昭和三年三月 埼玉県
保健調査会 一九二八・三

精神病院若クハ精神病患者取扱ニ関スル法令改正ノ
意見 (関西私立精神病院協議会) (一九三二・九)

精神病院法並精神病患者監護法及関係例規 昭和八年八
月 公立及代用精神病院々々主院長会 一九三三・八
最近三ヶ年度ニ於ケル精神病患者監護費調 (厚生省
予防局) 一九三八

私宅監置室の構造見取図(抄) 広島医科大学精神神経科
建議案 精神病患者ノ待遇統一ヲ望ムノ意見書 大阪
府会議長 一九三六・一二

VII 諸外国の精神病患者対策(解説 岡田靖雄)

一八五二・一八九八年間ニ於ケル病院收容精神病
者一人ニ対スル人口割表 一八五二・一八九八
各国ニ於ケル精神病患者保護法並其ノ施設概要 衛
生局保健衛生調査局 一九一八・九

第5巻

VIII 精神病患者慈善救済会および日本精神衛生協会

(解説 岡田靖雄)

救済会の趣旨及規則 一九三一・五
庶務日誌 大正四年六月起 精神病患者慈善救済会 一九一五・六
一九一六・五

心疾者の救護 第二十九号 一九一八・八

救済会々々報 第五十二号(創立滿三十年記念号) 編 村松常雄
/ 加藤普佐次郎・長山泰政・野村章恒・菅修 一九三二・七

精神病院に於ける常識及精神病院入院の手引 附全国
精神病院及收容施設一覽(救済会バムフレット第一輯) 村松常雄
一九三二・一〇

救国会埼玉支部創立趣意書▼一九三五・八
精神衛生運動(精神衛生バムフレット第一輯)▼述||植松七九
郎/日本精神衛生協会▼一九三一・五

教育と精神衛生(その一)―児童指導事業に就て(精神衛生バ
ムフレット第二輯)▼述||斎藤玉男/日本精神衛生協会▼一九
三一・一〇

精神衛生運動とは?▼(一九三三・九)

神奈川県精神衛生協会設立趣意書▼一九三三・九

IX 精神科看護(解説 岡田靖雄・小峯和茂)

癲狂院に於る精神病看護学▼述||榎保三郎▼一九〇一・八

根岸病院看護法▼編||森田正馬▼一九〇八・九

看護夫名簿綴込(抄)大正十年度ヨリ同十四年度ニ至ル▼男
看護科▼一九二一

根岸病院保養院争議団解決条項▼一九三三・四

東京府代用精神病院従業員給与待遇調査一覽表(職
員ヲ除ク)昭和八年五月現在(秘)▼一九三三・五

根岸病院争議闘争方針書▼全国労働組合同盟関東化学一般
労働組合争議部▼一九三三・八

根岸病院争議応援に起て!▼全国労働組合同盟関東化学
一般労働組合▼一九三三・八

隠忍百二十一日戒嚴令の解除と共に精神病院保養
院の暴状を訴ふ!!▼中央合同労働組本部・保養院争議
団本部▼一九三六・七

X 酒害(解説 岡田靖雄)

酒は何故に飲んで悪いのか▼松浦有志太郎

酒の害全▼津田仙/題字||勝安芳/東京婦人矯風会▼一八九
一・一〇

第6巻

XI 精神病学講義録/教科書(解説 岡田靖雄・正橋剛二)

断断医学 乾・坤▼講述||アルブレヒト・フォン・ローレツ

神教授精神病学▼高嶺三吉▼一八八七・七

呉教授精神病学▼筆記||浅田一▼一九〇九

第7巻

XII 統計(解説 岡田靖雄)

〔衛生局年報〕

第8巻

XII 統計(統)(解説 岡田靖雄)

精神病患者調査票記入参考▼内閣統計局▼一九一〇・一

精神病患者地方別表大正六年六月三十日現在▼内務省衛生局
▼一九一八・五

精神病ニ関スル統計自大正元年至大正五年▼内務省衛生局
▼一九二二・九

精神病患者収容施設調大正十五年六月末日現在▼内務省衛生
局▼一九二七・五

XIII 議会議事録(解説 岡田靖雄)

〔精神病患者監護法・議事録〕▼一八九九・一

〔精神病院法・議事録〕▼一九一九・二

第9巻

XIV 司法精神医学その他(解説 岡田靖雄)

犯罪と精神異状(司法警察官吏訓練資料)(秘)▼講演||中村
謙/高等法院検察局▼一九三九・一〇

精神病保護施設に就て(資料第貳拾貳号)▼財団法人三井
報恩会▼一九三七・四

昭和拾五年度麻葉中毒者救護会年報▼編||中谷謹吾▼一九
四一・九

XV 植民地の精神病患者対策(解説 岡田靖雄)

大連に於ける精神病患者統計▼土井正徳▼一九三六・八

昭和九、十年度年報▼台湾總督府養神院▼一九三七・五

第10巻

XVI 『救国会々報』

『心疾者の救護』▼第二七号第二八号別刷/第三三号/第四
九号▼精神病患者救国会/救国会▼一九一七・六、一九二八・九

『救国会々報』▼第五〇号/第六〇号▼救国会/精神病患者救
国会▼一九二九・一、一九四一・一〇

第11巻

XVII 『和光』

『和光』▼第二・三号・第六号/第七卷第一号▼公立及代用精神
病院協会/日本精神病院協会▼一九三四・一、一九四〇・四

XVIII 公立及代用精神病院協会総会議事録

公立及代用精神病院々々主院長会議議事録 昭和七年
十二月五日開催▼一九三二・一二

XIX 日本精神病医協会記事

日本精神病医協会記事 第一号▼一九二〇・一、一九三
四・四

第12巻

XX 『心理と医学』

『心理と医学』▼第一卷第一号/第一卷第三号▼日本精神療
法医学会(台湾)▼一九四四・六、一九四五・二

XXI 精神病院診録/病床日誌ほか

精神病院診録▼呉秀三▼一九〇八・九
病床日誌▼山眞助▼一八七七・一

精神病患者収容施設調 昭和四年七月末日現在▼内務省衛生
局▼一九三一・三

XXII 京都府・川崎市・神奈川県公文書類

精神障害者問題 資料集成

戦前編 全12巻

編集復刻版

第1回配本	2010年12月 本体75,000円＋税 ISBN978-4-905421-17-7		
	第1巻	I 初期資料	解説 岡田靖雄
		II 各地の「瘋癲人」取締規則等	解説 岡田靖雄・野田武志
		III 巢鴨病院 / 松沢病院	解説 岡田靖雄
	第2巻	III 巢鴨病院 / 松沢病院 (年報類)	解説 岡田靖雄
第3巻	IV 公立精神病院	解説 岡田靖雄	
	V 私立精神病院	解説 岡田靖雄	
第2回配本	2011年6月 本体75,000円＋税 ISBN978-4-905421-00-9		
	第4巻	VI 精神病患者監護法および精神病院法	解説 岡田靖雄・橋本 明
		VII 諸外国の精神病患者対策	解説 岡田靖雄
	第5巻	VIII 精神病患者慈善救済会および日本精神衛生協会	解説 岡田靖雄
		IX 精神科看護	解説 岡田靖雄・小峯和茂
		X 酒害	解説 岡田靖雄
第6巻	XI 精神病学講義録 / 教科書	解説 岡田靖雄・正橋剛二	
第3回配本	2011年12月 本体75,000円＋税 ISBN978-4-905421-04-7		
	第7巻	XII 統計 (『衛生局年報』)	解説 岡田靖雄
	第8巻	XII 統計 (続)	解説 岡田靖雄
		XIII 議会議事録	解説 岡田靖雄
	第9巻	XIV 司法精神医学その他	解説 岡田靖雄
XV 植民地の精神病患者対策		解説 岡田靖雄	
第4回配本	2016年6月 本体75,000円＋税 ISBN978-4-905421-96-2		
	第10巻	XVI 『救済会々報』	解説 岡田靖雄
	第11巻	XVII 『和光』	解説 小峯和茂
		XVIII 公立及代用精神病院協会総会議事録	解説 小峯和茂
		XIX 日本精神病医協会記事	解説 岡田靖雄・小峯和茂
	第12巻	XX 『心理と医学』	解説 岡田靖雄
XXI 精神病検診録 / 病床日誌ほか		解説 岡田靖雄	
XXII 京都府・川崎市・神奈川県公文書類		解説 岡田靖雄・後藤基行	

※戦後編 (全12巻) も刊行中

定価▼本体価格300,000円＋税

体裁▼A4判(4面付け方式)・上製本・
 総4、250頁
 編者▼岡田靖雄・小峯和茂・橋本 明
 解説▼岡田靖雄・小峯和茂・橋本 明・
 野田武志・正橋剛二・後藤基行
 協力▼野田武志・板原和子・小林ひとみ・
 後藤基行

推薦▼松下正明(精神医学史学会理事長)
 酒井シヅ(順天堂大学名誉教授)
 藤野 豊(近現代史研究者)
 中村 治(大阪府立大学)
 大友昌子(中京大学名誉教授・社会事業史学会会長)
 坪井秀人(国際日本文化研究センター)
 鈴木晃仁(慶應義塾大学)

*表示価格はすべて税別。